

平成29年度外部評価後の対応状況表

事業又は施策名【担当課】		
④公共物の管理と移行【土木課】		
外部評価実施後の委員意見及び担当課回答		その後の対応状況
委員コメント	担当課回答 (平成29年9月時点)	担当課の対応状況 (平成30年6月時点)
道路清掃といった道路管理事業の一部をなすもので、市民協働で対応できる部分を実施する事業であるが、そのシステムの検討を始めたばかりの事業であり、成果は出ていない。先行事例を調査しているが、その分析が行われてはならず、システムの構築には未だの感がある。市民協働のまちづくりのモデルケースの一つになるので、関連する機関(まちづくり協議会)とも密接に連携して進めて行くことが求められる。	調査した自治体の先行事例を分析し、何を市民協働で行うのかを見定め、まちづくり協議会等との対話の中で連携し、街路樹の市民管理ができる制度を構築していきます。	モデルケースとしての協力を地域の現在活動している団体等に仰ぐため、聞き取り調査を行いました。活動回数や施工範囲が現実的なものかなど、いただいた意見をふまえて、制度を検討しております。
街路樹の市民管理制度の構築を目的とするのであれば、1-2年かけて特定地区ですでに街路樹清掃などの実績のある自治会などと意見交換をし、協働事業の可能性を探ってみるということも重要かもしれません。平成29年度及び中・長期の目標について、もう少し時間をかけ実態に即した目標設定にした方が良いのではないのでしょうか。特定地区でパイロット事業として街路樹の市民管理が可能か否か、制度構築についての市民側との意見交換、対話などが必要なのではないのでしょうか。あるいはごみ清掃・環境などもからめ他部署との共同の可能性もあるかもしれません。	先進自治体の聞き取りを行い、市民主体による街路樹管理のあり方について目標を絞り込み、まちづくり協議会や他課等との意見交換を踏まえて制度を構築していきます。	モデルケースとしての協力を地域の現在活動している団体等に仰ぐため、街路樹がある路線周辺の自治会連合会長等から聞き取り調査を行い、今回の事業に対して必要な課としての最終目標設定など制度を検討しています。また、管理の方法や施工範囲などについても再度聞き取りを行う予定です。また、他課の制度(スマイルポイント)を利用できるよう再協議していきます。
当施策においては、施策を実行する上での課題や問題点の整理と、それに対する解決方法の展開が必要だと思います。この事案で言えば、愛護会やアダプト制度での運用による市民又は団体との協働がボトルネックになるものと考えます。これらの課題対策の立案を目標に掲げ、その進捗状況を成果推移として管理いただきたいと思ひます。	街路樹を市民が管理するために何が必要かを街路樹管理実績のある先進自治体に聞き取りを行い、アダプト制度が円滑に適用出来るよう市民やまちづくり協議会等との意見交換を交えて構築していきます。	モデルケースとしての協力を地域の現在活動している団体等に仰ぐため、街路樹がある路線周辺の自治会連合会長方からいただいた意見をもとに、活動条件や活動時間の設定など管理制度の検討を行っています。また、段階的な目標設定も含め、自治会連合会等や他課と再協議をしていきます。

<p>・「公共物の管理と移行」となっているが、「公共物の管理の移行」を含め、表現(また考え方)がこれで適切か、確認をお願いしたい。疑問として、管理の移行か、管理の委託か、管理の一部に市民協働を取り入れていくのか、等々。</p> <p>・管理を移行させることについて、全体として、何の管理を、どの様なタイミングで、どの様に移行させていくのか。そして、どの様なスケジュールで行っていくのかが、全く見えていない。やはり、この様な基本的方針については、きちんと明示する必要があるのではないかと思う。特に公物の管理の移行(委託)という表題から考えるとなおさら必要と思う。</p> <p>・市民協働で行う方向であるなら、この施策の意義、目的をしっかりと地元に説明し、地元の現状(できる内容、範囲、方法等)を把握し、手法(愛護会方式、アダプト方式)を含めてきちんと話し合いを行っていくなど、市と市民との協働の意思を疎通させる観点が必要だと思われるので、これを明記していく必要があると思う。</p> <p>・他都市の調査結果がまとめられており、様々なことが行われていることは承知できたが、市として、この分析がなされ、本市の状況に当てはめてどうなのかという検証が不十分に見受けられた。是非、早急に分析するとともに、本市に何が適切かの検討をお願いします。</p> <p>・現在でも、無償で、範囲は自分の範囲で狭い方も見えるにしても、道路や河川の、除草、清掃、はじめ地道な活動をされている方(団体)も見受けられる。これらの内容を市としてしっかり把握し、そのことに感謝する施策を行うこと等により、これらが起爆剤となって、本施策も推進されていくことにつながることも思料されるので、少なくとも、現在活動されている実態の把握に努めることもお願いしたいと思う。</p>	<p>公共物の管理の移行について、土木課としてまずは現在行っている街路樹管理の一部を市民に移行していきたいと考えています。移行のタイミングについては、街路樹管理実績のある先進自治体に聞き取りを行い、市民の現状(できる内容、範囲、方法等)を分析し、また、まちづくり協議会等との意見交換を踏まえて、制度について市民に説明をし、御理解を得た後、管理を市民に移行するとともに、現在活動されている道路や河川の、除草及び清掃等の活動実態の把握に努めて、今以上に活動がし易くなるような制度を構築していきます。</p>	<p>街路樹の管理を市民に移行するにあたって、まず、モデルケースとしての協力を地域の現在活動している団体等に仰ぐため、街路樹がある路線の自治会連合会長等への聞き取り調査を行いました。管理方法や施工範囲などのすりあわせを行う必要もあり、制度の検討をしております。今後、さらなる聞き取りを行い制度の広め方も含め、引き続き自治会連合会等や他課との協議をしていきます。</p>
<p>本事業の狙いや目的が質問を繰り返しても理解できなかった。 街路樹管理費(h27年度1億、h28年度98百万)の財政負担軽減なのか？市民の美化高揚運動なのか？落葉被害の苦情対策なのか？全国的なアダプト制度(有償の愛護会や無償ボランティアなど)に相乗りなのか？未だ計画は白紙と認識した。 目的次第で異なる施策、まずは住民サービスに直結するニーズを探るところから再スタートしてほしい。 住民のために手弁当で貢献する無償ボラ、消耗戦自前モチベーションでは維持できず退場を余儀なくされる叫びをまたまた聞いた。 行政は住民の意識高揚を目的に、安易な無償ボラ利用は厳に慎まなければならないと思う。 進め方は住民との情報交流が必要、一方的な負担はいずれ破たんする。</p>	<p>御意見のとおり市民の美化意識の高揚、落ち葉対策を目的とし、市民に管理を移行するために制度を構築したいと考えています。そのために、他自治体の実施例の聞き取り調査やまちづくり協議会等の団体との意見交換を行いながら、制度の構築に努めていきたいと考えます。</p>	<p>モデルケースとしての協力を地域の現在活動している団体等に仰ぐため、聞き取り調査を行いました。活動回数や施工範囲が現実的なものかなど、いただいた意見をふまえて、制度を検討しております。</p>